

(4) 生徒活動報告

1 タイの風景

機械科3年 篠崎 隆
機械科2年 上 悟史
機械科2年 田中 達也
電気電子科1年 山田 瑞希

初めに、わたしたちを温かく迎えてくれたタイの町並みや食べ物、歴史的な建物などを紹介します。

1 ピッサヌローク(Phitsanu Lok)

今回の活動の中心となったピッサヌロークは、バンコクから国内線の飛行機で55分、距離にすると北に498Kmのところの位置し、バンコクとチェンマイの中間にある都市で、タイ北部の経済と交通の中心地になっています。



活気に満ちたピッサヌロークの街

ピッサヌロークでは、大きな交差点でも、信号はあまりなく、横の道からどんどん車が入ってきます。日本だったらクラクションを鳴らされるだろうと思います。

この町では、バイクの前にリヤカーのようなものがついていた乗り物がとても多かったです。これで、たくさんの荷物や人を運びます。大人が5~6人乗っているところも見かけました。警察でさえも、二人で乗っていました。大きな通りからホテルに入る道路では、まだ道路が舗装されずに、赤い土が掘り返されたままになっていました。しかし、バスステーションのまわりには、小さな店がたくさん並んでおり、活気がみなぎっていました。

車椅子の部品を調達するために、町の商店街に買い物に行きました。車椅子のシート材料になる布を買った店では、店員が商品の上ののって、注文の

品物を探し出し、上に引っ張りあげました。日本とは異なる商売の仕方に、とても興味を惹かれました。

板を買った店で、運ぶ車がなく困っていると、話を聞いていた店のお客さんが、修理活動の場所まで運んでくれました。タイの人は親切だなと思いました。

車で走っていると、かわいい看板の建物を車から発見し、思わずカメラに収めました。よく見たら、ポリスボックスと書いてあり、交番でした。この町の景色は、とても興味深く新鮮なものでした。

次に私たちが出会った、タイの食べ物を紹介します。

2 タイの食べ物

ある店で、米の粉を固めた薄いせんべいのようなものを見つけました。これはチャポーというもので、屋台でよく売られています。緑色の鮮やかな葉っぱで甘い辛い酸っぱいものをいっしょに包み、串にさして食べます。先生方は、おいしい！と言っていました。僕たちは1つだけでもおいしい、と思いました。NGOのラッチャイさんの話では、伝統的な食べ物だけど、タイでも若い人たちは、あまり食べないと言っていました。



屋台にはたくさんの食材が並ぶ

店先には色とりどりのくだものがたくさん並んでいました。くだもの種類は大変多く、初めて見るものばかりで、驚きました。多くの店で、バナナを焼いて売っていました。タイでは、バナナで作った食べものがとても多いことがわかりました。われわれに1番人気だったものは、バナナチップです。日本のとは違ってちょっと辛くておいしかったです。1袋20パーツ、日本円で60円くらいでした。みんなたくさん買い込んでい

ました。バナナの薫製、バナナのドライフルーツなどにも興味を惹かれました。

また、麺類も豊富です。お昼に食べたものでは、ラーメンはもちろん、ワンタンの皮のような幅広の麺のうどんもおいしかったです。壁にはメニュー表があり、ラーメンもうどんも一杯 25 バーツ。日本円にして約 75 円くらいでした。

タイの料理の特徴は、甘い・辛い・酸っぱいです。これくらいの辛さなら大丈夫！とタカをくくと唐辛子が口に入り、大変な事になります。

3 スコータイ遺跡公園 (Sukhothai)

ピッサヌローク滞在 2 日目には、スコータイ遺跡を訪れました。スコ - タイ時代には首都として、アユタヤ王朝時代にも重要な都市として栄えた歴史のある町です。美しい遺跡群があることで有名です。



700年のタイムトリップ (Wat Mahathat)

公園内には、「ポー」と呼ばれる木がたくさんありました。この葉はハートの形をしており、人の心を表しているといわれ、寺院にしか植えることができないという話でした。700年前のタイにタイムスリップしたような、不思議な空間を短い時間でしたが、われわれは満喫できました。

4 バンコク (Bangkok)

最後に、首都バンコクの紹介をします。バンコクは、世界でも屈指の交通量を誇る大都市です。街中には、タイで有名なトゥクトゥクというタクシーが観光客を乗せて走り回っていました。これは、日本でも昔走っていたオート三輪車です。わたしたちは、バンコクで有名な観光地を見学しました。

最初に訪問したのは、王宮です。20 万㎡に及ぶ敷地の中に、きらびやかな王宮の建物が並んでいま

す。この日も、世界中から、たくさんの観光客で賑わいを見せていました。王宮内では、衛兵さんが行進をしている風景に出会うことができました。また、警備をしている衛兵の人は、写真を撮られても微動だにしませんでした。衛兵の人が銃を触らせてくれましたが、さすがに持たせてはくれませんでした。本物の銃に触ったのは初めてでした。

次の見学地は、ワット・ポーという大きな仏像とタイ式マッサージが有名な寺院でした。横たわる仏像は、奈良の大仏より大きくて驚きました。

リクライニング・ブッダの名のごとく、その表情は柔和で愛に満ちていました。

最後にチャオプラヤー川を船で渡り、ワット・アルーンというお寺に行きました。たくさんの巨大な塔があり、表面には無数の陶器の破片が隙間なく埋め込まれ、美しい彫刻のようでした。

短い観光でしたが、バンコクの文化にも触れることができ、良かったです。



チャオプラヤー川越しに望むワット・アルーン

5 最後に

今回の活動では、車椅子修理活動に時間を多く当てた為、有名な寺院や遺跡をあまり見学する時間を取ることができませんでした。しかし、バンコクやピッサヌローク町の様子や人々の生活の中に、日本とは違った凄さを感じることができました。思い返すと、この 8 日間は、私たち自身が、数々の体験を通していろいろな事を直接肌で感じ取ることができた、本当に貴重な日々であったように思います。

2 訪問施設と交流会について

機械科 3年 酒井 誠弥
情報技術科 3年 成田 悠
情報技術科 2年 堀 航平
機械科 1年 篠崎 淑貴

訪問施設と交流会の報告をします。

1 ワット・ドン・ミー小学校

(Wat dong mee school)

12月14日、私たちは、最初にピッサヌローク市内にある、ワットゥーミー小学校を訪れました。この小学校は、修理活動をしたヘルスセンターから車で5分くらいのところにあります。私たちはここで最初の交流会を行いました。

初めにソーラン節を披露しました。子供たちは私たちの踊りを楽しんで見てくれていました。放課後一生懸命練習した努力が実り、本番では今までで一番良い踊りが出来ました。



日本から持参した文房具をプレゼント

次にタイの民族楽器アンガルーンで、「春の小川」と「キラキラ星」を演奏しました。たくさん練習したのに緊張して、少し失敗してしまいましたがタイの人達は暖かく笑って聞いてくれました。これは、去年も取り入れた曲目です。美しいハーモニーにタイの人々は、とても喜んでくれました。

最後に歌を歌いました。「島歌」「乾杯」「あのすばらしい愛をもう一度」「またあえる日まで」「幸せなら手をたたこう」です。「幸せなら手をたたこう」では、タイのNGOのスリヤーさんが、タイ語で訳してくれ、学校の生徒さんたちと一緒に歌うことができました。お互い言葉はまったく

分かりませんでした。心が通じ合った気がしました。私たちだけではなく、小学校の生徒さん達も歌や踊りを披露してくれました。可愛らしく音楽も特徴的でとてもいいものでした。



アンガルーンで「きらきら星」を演奏

交流会では、小学校に文房具を寄贈しました。とても喜んでもらえることができたのでうれしかったです。栃木西ロータリークラブの方々も日本からかけつけてくれ、サッカーボールなどをプレゼントしていました。

歌や踊りが終わったあと子供達と一緒に遊びました。タイの子供達はとても無邪気で元気があり僕たちも元気を分けてもらったような気がします。そして、最後に皆で記念撮影を撮り、お別れしました。ここで行った交流会はとてもいい思い出になりました。



華麗な民族衣装をまとった生徒たち



一緒に歌った「しあわせなら手をたたこう」

交流会が終わりヘルスセンターで修理をしていると、授業を終えた小学校の生徒さんたちが、遊びにきてくれました。おかげで、この日の修理活動は笑顔の耐えない修理活動になりました。

2 ピッサヌローク県庁舎

(Phitsanu Lok Office)

次に行った交流会は私たちが二日間修理活動を行ったシティホールで16日に行いました。

ここで交流会を見てくださった方々は体に障害を持った方でした。本当に真剣に私たちの歌や踊りをみてくれていたのでとても感激しました。私たちも真剣にやることができたのでとても充実した気持ちです。そして、見てくださる方も楽しんでくれていたので、私たちも楽しみながら交流会を行うことができました。



日本から持参した修理車いすを寄贈

ここでもアンガルーンで「キラキラ星」「春の小川」を演奏しました。そして、「島唄」を歌いました。皆、少し緊張してしまいました。最後の歌は「幸せなら手をたたこう」でした。来て下さった

方々も一緒に歌ってくれました。笑顔で歌ってくれれば私達もとてもうれしい気持ちになりました。歌が全て終わると、来て下さった方々は皆笑顔で手をたたいて喜んでくれました。

交流会も無事終了し、来て下さった方々と握手をし、お別れです。この交流会では自然に、タイの人々との絆が深まりました。

3 全員で感動の大合唱！！

12月17日、とうとうタイともお別れです。ドムアン空港で最後の別れを告げることになりました。私たちは、感謝の気持ちを色紙に書いてNGOの方に贈呈しました。今回は、皆1人1人タイボランティアにたいして熱い思いで行なった活動でした。3年生にとっては最後のタイボランティアです。いっそう思いの強い別れなので今までのお礼とまたいつか会うことを約束しました。1,2年生は、来年も来て今年以上のボランティアをすることを約束しました。私達もNGOの方々も涙、涙の別れでした。しかし、最後はさわやかな笑顔でした。

4 最後に

8日間のタイボランティアの活動を終え、18日、無事日本に帰ってきました。解散式では、保護者の方にタイで歌った歌を聴いてもらいました。日本帰ってきたのだと実感し、同時にタイがなつかしくなりました。NGOの方や先生方、そして保護者のおかげで今回のタイボランティア活動が出来たことを大変感謝しています。本当にありがとうございました。



また一つ、忘れられない思い出ができた

3 車椅子修理活動

機械科3年 小関 晃寿
機械科3年 伏木 孝紀
機械科2年 大塚 紀宏
電気電子科1年 池田 雅幸

今回の修理活動はピサヌローク県内にある2箇所の施設を訪れ、修理活動を行いました。それぞれの活動場所で2日間ずつ、4日間かけての活動となりました。なお、車椅子修理活動は、タイボランティアの活動のメインとなるものです。

1 バアン・サンティ・バンケウ・パブリックヘルス センター

Baan·Santi·Bantkeung·Public·HealthCenter

修理1日目、2日目はバアン・サンティ・バンケウ・パブリック・ヘルスセンターで修理活動を行いました。この施設は、身体に障害のある方々が集う健康センターです。障害者の方々のリハビリや、マッサージなどの支援を行っています。勿論、中には足の不自由な方もいらっしゃいました。それ故に修理活動にも自然と力が入りました。

修理活動前に、日本から持ってきた修理済みの車椅子を5台寄贈致しました。早速試乗していただいたところ、とても喜んでいただけたようでした。直した甲斐がありました。



車いす贈呈式（ヘルス・センターにて）

今回修理することになった車椅子は、日本で直していた車椅子に比べて状態が酷く、ここまで状態の悪い車椅子を見たのは初めてでした。しかし、そんな弱音を吐いてる暇はありません！みんなで協力して1つ1つの車椅子を修理していきま

す。最初は修理できるのかとても不安でした。見ると車輪のスポークや車体のフレームが折れており、溶接が必要でした。このときアーク溶接で、3年生の岡本先輩や岩出校長先生がその壊れた部分を直してくださいました。このとき先輩たちはとても心強かったです。



みんなで協力して修理を進める

細かい部品でも最善の注意をはらって修理していきました。中には部品が無かったり、状態がひどく悪いものもありましたが、いろいろと工夫しながら進めていきました。特に車軸の部分はその車椅子の命です。丁寧かつ慎重に修理しました。

NGOの方々と現地の方々もいっしょに修理してくれました。NGOの方々は僕たちの通訳にもなって下さり、とても頼りになりました。

車椅子以外にも持ち込まれた自転車なども率先して修理しました。この自転車は持ち主の方にとって足になる大切なものです。初めは遠いところで不安そうに眺めていましたが、しばらくすると、一緒に修理を手伝って下さいました。タイの人々と心が通じ合った瞬間です。



オーナーに不具合箇所を確認する

ヘルスセンターでの修理が完了し、2日間で合計16台の車椅子を利用者の方に渡す事ができました。この修理活動は、サンティカnten保健所、パッタチャイヤ病院、ピサヌローク県社会福祉局、ピサヌローク障害者クラブの協力で行われました。

2 ピサヌローク県庁舎 (Phitsanu Lok Office)

活動3日目、4日目は、ピサヌロークの県庁舎での修理活動になりました。初めは手こぎ三輪車が活動の大半を占めました。その車椅子の持ち主の方と共に、協力して事にあたりました。



作業能率も日に日にアップ!

慣れない手こぎ三輪車には苦戦しました。しかも状態が悪く、酷いものは手こぎ三輪車の命と言える動力レバーが折れていました。

4日目になると普通の車椅子も続々運ばれてきました。手こぎ三輪車と併合して確実に作業を進めていきました。

先生方はとても頼りになりました。一緒に修理していると、その技術に圧倒されました。タイヤ部分は最も大切な部分です。入念にチェックします。車軸も大切ですが、古くなったタイヤを交換して、滑りを防ぎます。修理が完了したあとの手は、油が染み込んでおり、一生懸命頑張った証です。今までの活動が一気に思い出されます。

折れてしまった動力レバーも修復し、手こぎ三輪車が完成しました。なかなかのできに仕上がりました。充実と満足の念がこみ上げてきました。

修理も無事に終わり、現地の方と記念写真を撮りました。此处で現地の方にタイ語で会話を試みました。ぎこちないものでしたが、ありがとう(オープンマークラップ)と、難とか伝えることができ

ました。国境を越えた言葉の意思伝達の素晴らしさを実感しました。

苦労して直した手こぎ三輪車を持ち主の方にお返しします。持ち主の方の笑顔を見るとこちらも自然と笑みがこぼれてきます。NGOの方々と先生方、そして現地の方々の支えもあり、このタイボランティアの車椅子修理活動も成功させることができました。



やったぜ! 完成!!

3 修理活動のまとめ

今回の活動では、合計34台の車いすを修理することができましたが、数々の課題が残りました。全体的に今年の修理活動は、状態が悪く、予備のパーツが足りずにタイのNGOの方に大変ご迷惑をおかけしてしまいました。修理活動でも、手こぎ三輪車が以外に皆苦戦していたようでした。そこで、反省として、手こぎ三輪を日本に取り寄せて、修理のノウハウを学んでタイでの修理活動に生かしてゆければいいと思います。

来年はもっと技術を磨いて修理活動の充実を計りたいと思います。

われわれは、「車いすを直してあげるのではなく、直させてもらっている。」「直した車いすは利用者の足になり、そして生活が変わる。」という修理活動の理念を再認識し、活動に望むことができたと思います。

4 まとめ

機械科3年 若林 憂樹

機械科3年 岡本 大輝

情報技術科2年 大橋 亮介

情報技術科2年 村川 大貴

1 最初に...

今回のタイボランティアでは、練習ではあまり人が集まらず、全員が揃う事が少なかったように思えます。ですが、現地へ到着し、いざ修理活動となると皆真剣になり、一つの目標へ向かい、ひたすら突き進んでいるように見えました。

今回は、今までにない16名という大人数ですが、生徒が団結し力を合わせて活動をしていました。今年のメンバーを見ていてひとつ思えたことは、学年の枠を超え、気軽に接することができる仲間。でも修理作業をする時の目は、技術者の真剣な眼差しでした。それは、「修理をしてあげてではなく、やらせてもらっている」という意識が少なからず全員の中に、あったのではないのでしょうか。先生や生徒という肩書きは関係なく、ともに同じ立場で向かい合い、最後まで協力してできたと思います。



一高校生から、一技術者へ

2 修理活動1日目

初日の活動は、作業効率や全ての点において、最悪といっても過言ではありませんでした。その夜のミーティングでは、小倉先生曰く「初日はこんなものだ」というようなことを言われましたが、果たして初日だからという理由だけでしょうか。練習も全員が揃わず、誰かが出来て、誰かが出来

ないという構図が出来上がっていたのではないのでしょうか...?もし、コミュニケーションをとって活動をすれば、そこまでひどくはならなかったと思います。

初日の活動で浮上した問題点は、「コミュニケーション不足」でした。

3 修理活動2日目

修理活動二日目は、修理活動の前に現地の小学校と交流会がありました。交流会は、私たちがとても楽しみにしていたもので、日本でも十分に練習した結果、タイの子供達と、とても仲良くなれました。

午後からは修理活動が、前日と同じ場所で行われました。初めのうちは、午前中の疲れがあるのか、いまいちみんなに元気がありませんでした。ですが、作業全体を見ると、初日と比べ全体的にレベルUPしていました。コミュニケーションも、そこそことれ、作業効率も格段に上がっていたように思えます。二日目はかなりの速さで修理作業ができました。

二日目のミーティングでは、「もう少しコミュニケーションをとる。」と「片付け作業を協力する。」「道具を探すときに皆に呼びかけて探す。」という課題が残りました。

4 修理活動3日目

3日目の修理活動ではピサヌロークの県庁で行いました。

そこへは、初日、2日目で修理活動を行ったヘルスセンターの方々が来てくださりとても、心の支えになりました。この日の全体的な雰囲気は、とても良かったです。お互い協力し、声を出し合い、100%に近い力をだせていたのではないのでしょうか?この日の活動は、とても心地良い活動になりました。施設の皆さんと一緒に修理活動は、会話が弾み、笑い声が絶えませんでした。

そして、この夜のミーティングでは「道具を探すときの声かけ」という課題だけが残りました。

5 修理活動4日目(最終日)

作業最終日、この日は、前日と比べると、あ

まりよくはありませんでした。

午前中だけだというのに、たくさんの車椅子が届けられ、われわれの疲労もピークを迎え、決められた時間内で出来る量ではありませんでした。でも、きれいにする事より、まず、使える状況にするというのを大前提に頭を切り換え、皆で取り掛かりました。

また、この日は、最後に副知事さんとお会いして短い時間ですが、交流会も行いとてもいい雰囲気、しめくることができました。

今回の活動では、修理できた総数が 37 台でした。すべての修理作業を完了し、ピサヌロークの思い出を胸に、夜、飛行機に乗り、タイの首都バンコクへと向かいました。

バンコクへ着き、この日、最後のミーティングを行いました。皆、時のたつのも忘れ、感じたことや、思い思いのことを発表し、現地 NGO の人たちと最後のミーティングをととても良い形で終わらすことが出来ました。

6 帰国して

無事、日本の到着し、バスで帰っているときに皆何を思ったのでしょうか？「安全に外が出歩ける。」や「言葉が通じる。」「携帯電話が使える。」などでしょうか？

タイが私たちに与えてくれるものはなんでしょうか？気候や風土の違い？日本語が通じない？お金の単位が違う？何もかもが違う！何もかもが日本と違うからこそ、人それぞれ、新しい何かを得られるのではないのでしょうか？

そして、もう一つ、タイが自分に与えてくれたものは、経験や知識だけではなく、この 16 人でやる活動の楽しさ、厳しさです。今回参加した、他の人たちはどうでしょうか？もし、今回のメンバーでなければこのような経験を得られることは出来なかったともいます。一人欠ける事もなく、皆信頼しあってこそ、最後までやり遂げられたのではないのでしょうか？そして今、この経験を一人でも多くの人に体験してもらいたいと思っています。そして、私たちをサポートしてくれた、タイの家族。本当に有り難うございました。



おじいちゃん 出来たよ！

7 最後に

われわれが、12月11日、バンコクで飛行機の乗り継ぎを、ゲートで待っていたことです。そこでは先発の「プーケット島」行きの最終案内が続いていました。多少遅れているようで、「プーケット！」「プーケット！」という案内が何度も何度も繰り返されていました。その声にせかされるように、たくさんの人々が、われわれの目の前を、足早に通り過ぎたのを覚えています。

私たちが帰国した数日後、今回の津波の報道に触れ、とても驚くとともに、あのゲートの風景が思い起こされ、とても悲しい気持ちになりました。われわれをサポートしてくださったタイ NGO の方々も睡眠時間を削って働いていると聞いています。

今回のスマトラ沖大地震で津波災害に遭われた、タイをはじめとするすべての国の人々に、お見舞い申し上げるとともに、現地の1日も早い復興と笑顔が戻るよう、お祈りいたします。



支援団体の協力に感謝いたします。